

令和8年度

板野東小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①自ら学び、行動し、自分の力を伸ばそうとする子どもの育成
- ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の充実

校長

田村 卓也

学力向上推進員

柏木 可奈美

【各校の取組状況の把握について】

研修の機会を生かして、取組状況について報告する場をもつ。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○与えられた課題に真面目に取り組むことができる児童が多い。</p> <p>○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている児童が多い。</p> <p>●学力差が大きく、前学年までの既習事項が定着していない児童もいる。</p>	<p>・基礎的・基本的な知識・技能を活用し、自分の力で問題を解決することができる。</p> <p>・国語及び算数において、単元テストで80点を超える児童が、低学年は8割、中・高学年は7割になる。</p>	<p>・生き生き学習の時間や家庭学習で、漢字・計算・読解問題に取り組む。</p> <p>・小テストやドリルを繰り返し行うことで、全児童の基礎学力の定着を図る。</p> <p>・算数で習熟度別指導や複数教員での指導、タブレットを利用した学習など、個に応じた指導を行う。</p> <p>・文章問題では、大事な部分に印やアンダーラインを入れるよう指導する。</p>			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○場に応じた声や言葉遣いを意識して発表できる児童が、高学年には多い。</p> <p>○発表する意欲があり、友達の意見もしっかりと聞くことができる。</p> <p>●語彙力が低く、文章を読み取る力が低い。</p> <p>●自分の考えを文章にして表すことにも課題がある。</p>	<p>・語彙力を増やして自分の気持ちや考えを話したり、書いたりすることができる。</p>	<p>・辞典の活用や語彙力を増やすドリル、視写等に取り組み、正しい文章表現を学ぶことができるようにする。</p> <p>・覚えた語句を使って短文作りや日記、作文を書く機会を設定する。</p> <p>・ペア学習・グループ学習の機会を効果的に設定する。</p> <p>・根拠を示しながら意見をもてるよう指導する。</p> <p>・SSTを行う。</p>			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○ICTの活用により、意欲的に学習に取り組むことができている。</p> <p>○課題や家庭学習に主体的に取り組むことができる。</p> <p>●人の話を最後まで聞くことができない児童がいる。</p> <p>●学習習慣が身に付いておらず、苦手な分野や難しい問題に粘り強く学習に取り組むことができない児童がいる。</p>	<p>・生活や学習のきまりを守って落ち着いて生活し、望ましい学習習慣を身に付ける。</p>	<p>・朝の全校一斉読書や読み聞かせを実施し、落ち着いて学習や生活に取り組めるようにする。</p> <p>・めあて・まとめの記述を徹底し、学力の定着を図る。</p> <p>・PBSで目標を立て、できたことをほめる機会を多くする。</p>			